

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300909		
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会		
事業所名	山口地域ケアセンター グループホームあさくら		
所在地	山口県山口市朝倉町4-55-6		
自己評価作成日	平成30年4月24日	評価結果市町受理日	平成30年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成30年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あさくらの主人公は『入居者の皆様です』住み慣れたふるさとの地域で入居者の皆様に寄り添いながら支援させていただきます」を基本理念に住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう支援しています。認知症により要介護状態であっても、その人らしい生活ができるよう、本人、家族の思いや希望に沿ったケアプランを作成し実施しています。さらに、グループホームあさくらで行われる行事や食事には季節を感じていただける工夫を行うとともに家族と交流を図ることも実施しています。同一敷地内に湯田温泉病院、在宅複合型施設やすらぎ等があり、医療面での協力体制や各種行事、研修の連携を行っている。地域の自治会に加入し、地域との交流、関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺の散歩や法人の敷地内の売店での買い物、スーパーでの食材の買い物などの日常的な外出の他、季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉など)や車での外出(自宅や生家周辺、道の駅、瑠璃光寺等)、家族との外食や買い物など、利用者一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援に取り組んでおられます。面会時やカンファレンス時などで家族の意見や要望を聞く機会を設けられている他、家族と一緒に食事づくりをされたり、法人のバスを利用して利用者と家族が一緒にバス旅行を楽しまれたり、家族が事業所の大掃除の手伝いをされているなど、家族が関われる場面や機会づくりをされて、利用者と家族の絆を大切にされながら、共に利用者を支えていく関係づくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あさくらの主人公は『入居者の皆様』です。住み慣れたふるさとの地域で入居者の皆様に、寄り添いながら支援させていただきま す。」を基本理念とし、日々の関わりを見直し、検討しながら実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事務室と玄関に掲示している。申し送り時やカンファレンス時に話し合っ て確認し、理念を意識付けして共有し、実践につな げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域の自治会に加入し、地域の行事(お祭 り、清掃活動等)に参加したり、散歩の途中 には挨拶を交わし、地域の方と顔なじみの 関係ができるよう、努めている。	自治会に加入し、管理者が総会に出席して いる他、利用者と職員は一緒に清掃作業に 参加している。自治会と法人の合同の夏祭り には利用者も参加し、地域の人と交流してい る。法人の託児所の幼児達の来訪がある他、 大学のソーシャルワーカーの受け入れをして いる。隣接の在宅複合型施設にボランティア (笑いヨガ、フラダンス、歌体操、大正琴等)の 来訪があり、利用者は出かけて行き、多くの 人と交流を楽しんでいる。買い物時や散歩時 に出逢った地域の人と挨拶を交わしたり、畑 作業中に近隣の人から手ほどきを受けるな ど、事業所自体が地域の一員として、日常的 に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進委員会議の際、自治会長や民生 員の方々に参加して頂き、情報の共有ととも に地域で認知症の事例について話し合っ ている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価の項目については、 職員で分担して作成している。改善が必要 な部分については、話し合い、改善に向け、 取り組んでいる。	管理者は自己評価をするための書類を全職 員に配布し、介護経験に応じて項目を分担し て記入してもらい、不明な点などについて随 時、話し合いをして管理者がまとめている。前 回の評価結果を受けて目標達成計画を作成 し、法人研修で救急救命法を受講している 他、内部研修で感染予防(インフルエンザ、ノ ロウイルス)の対策に取り組んでいるなど、評 価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。ご家族、自治会長、民生委員、介護保険課職員に参加してもらい、日々の状況を報告するとともに、そこで得た意見を活かせるように努めている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者状況、行事、活動状況、職員の異動、研修報告、インシデント、アクシデント、事故報告書について報告し、話し合いをしている。職員は交代で出席し、会議録は回覧して共有している。家族の協力を得てのバス旅行の提案について検討事項の経過を報告して意見をもらっているなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらったり、質疑応答を通して関係作りに努めている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、出向いたり電話等で相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、利用者状況等について電話で話し合っているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアセンター内で身体拘束防止の基準があり、虐待防止委員も設置している。委員活動に参加したり、センター内での研修に出席している。また、玄関にはセンサーによって出入口での察知ができるようになっている。	マニュアルがあり、年1回の法人研修で学び、復命伝達で職員は共有し、理解をして、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックに気づいた時には、管理者が注意している他、言葉づかいについては職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止対策委員会に職員が委員として参加し、情報を共有している。また、虐待防止についての研修に参加し、虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を活用している利用者が3名おられる。社会福祉協議会、権利擁護センター推進員へ利用者の状況を報告している。また、気になる点があれば連絡し、相談できる体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定等の際は、利用者、家族と話を重ね、時間をかけて丁寧に説明している。その際には、不安や疑問等も尋ねている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情要望箱を設置し、重要事項説明書に苦情申立窓口について明記し、契約時に説明している。面会の時や家族が参加する行事には家族の要望、意見等を聞く機会を作っている。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年2回のカンファレンス時、電話、事業所だよりや請求書送付時などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている他、年1回の家族との食事づくりや大掃除などの行事時にも聞いている。ケアについての要望はその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が参加するグループホーム会議を月1回行い、意見交換を行っている。事前に検討事項を揚げておく等して、話し合い、情報の共有を行っている。	管理者は年2回の個人面談の他、月1回のグループホーム会議時や申し送り時、日常業務の中でも職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。職員からは業務改善として早出、遅出の役割分担の見直しや業務内容の明確さについて提案があり、検討、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職者会議等、センター内の情報は職員会議等で報告している。また、個々に面談を行い、意見を聞き、各々のやりがいのある職場環境の整備を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数により、センター内で研修プログラムが確立されており、研修を受ける機会は確保されている。また、法人外の研修についてはグループホーム協会等の研修に参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。受講後はグループホーム会議時に復命をし、資料は閲覧できるようにしている。今年度は2回、介護福祉士の研修等に参加している。法人研修は、介護倫理、メンタルヘルスに参加している。内部研修は、法人のディサービスセンターと合同で感染症予防、認知症の理解、事例検討(2回)を実施している。新人研修は法人研修受講後、先輩職員の指導で働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にグループホーム協会やサービス部会等に参加し、ネットワーク作りや勉強会を通じて交流する機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族に見学していただくと同時に、その時にコミュニケーションを行って関係作りを心掛けている。また、センター方式を利用して利用者の行動や思いを把握することに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族への電話や来所時に、本人の情報や希望を聞くように努めている。また、その中で今までの生活をお聞きしながら、希望や不安なこともお聞きし、信頼できる関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、センター方式を活用し、スタッフとご本人や家族と話し合いを行っている。また、状況によって生活必需品や受診の付き添いなどの他のサービスを対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在、3食の食事を共に作ることが難しい状況であるが、配膳や掃除等などはスタッフとともにいき、共に生活をする関係を務めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などは、ご家族との大切な時間を過ごせるように心掛け、最近の様子を家族に報告している。また、グループホームで行われる行事には家族の参加していただくよう積極的にお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に暮らしていた地域に出かけ、なじみのお店や散髪屋等に行き、地域の方々との交流を行っている。	家族の面会や親戚の人、友人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流を支援している。自宅付近や生家周辺のドライブ、馴染みの美容院の利用、家族の協力を得ての外食、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事など普段の生活の中で利用者同士が話せる機会を作り、その関係性を大切にしている。また、利用者同士が一緒に行える手作業やレクリエーションを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所となった利用者へ、誕生日に職員がお祝いに行き、その時に利用者やその家族と必要に応じて、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員1名が2名の利用者を担当し、定期的カンファレンスを行い利用者の希望や意見を聞き、その把握に努めている。	センター方式のシート(生活歴、暮らし方の情報等)を活用している他、日ごろの関わりの中での気づきや利用者の訴えなどをケース記録に記録して本人の思いや暮らし方などの意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報を得て、職員間で話し合いをして、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者自身や家族とのコミュニケーションから生活していた「なじみの場所」をお聞きし、その場所に定期的に行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者の表情や言動に注意深く観察している。また、日々の記録や申し込りを活用しながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、その意見交換をもとに介護計画の立案や見直しを行っている。また、状況によっては他職種から意見を求め、それを反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、バイタル表、プランノート、利用者ノート、業務ノートを活用して情報共有に努めている。さらに、ケアの実践については援助実践表への記入も行い、職員間で共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調に応じてグループホームの職員が病院の受診を行っている。また、リハビリのニーズがある利用者については、湯田温泉病と連携し、病院でリハビリができるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入し、清掃活動に参加することや、なじみの店での買い物・散髪を行っている。また、近隣の神社や御地蔵様のお参りや、地域のお祭りに参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人である湯田温泉病院と連携を図っている。本人、ご家族の意向を尊重し、家族の希望の病院(湯田温泉病院以外の)への受診が可能である。定期受診は必ず行い、様子を主治医に報告している。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は訪問診療がある。週1回、訪問看護師の来訪があり、バイタルチェック等の健康管理をしている。受診時の情報は口頭で伝えている。受診結果は電話で家族に伝えている。職員間では受診記録で共有している。夜間、緊急時の対応は、訪問看護師及び協力医療機関と24時間連携体制を整備しており、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にある同じ法人の訪問看護ステーションより、毎週1回看護師が来所し、バイタルなどの利用者の情報を伝え、相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、書面(サマリー)で利用者の情報を提供できるように準備を行っている。入院時は入院先と連絡を密にし、早期退院へ向け、病院側、家族と相談しながら、対応している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、看取りを希望などは個別の話し合いの場を設けている。その場合、家族、看護師、医師を交えて、カンファレンスの時間を設けている。	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」に基づいて、終末期ケアや看取りケアなど事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師、関係者等と話し合いをして、看取りや医療機関、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデントレポートを活用し、カンファレンスにて予防の対策を立案し、職員と情報を共有している。またリスクマネジメント委員会に職員が委員として参加しており、また必要に応じて、ケアセンター内のリスクマネージャーに相談を行っている。	事例が発生した場合は、その日の職員間で改善策を検討し、記録して申し送り時などに回覧して共有している他、法人のリスクマネジメント委員会で事例検討をし、助言や対策を事業所に持ち帰り、月1回のグループホーム会議時に再検討している。事故発生時に備えて、法人研修の救急救命法や内部研修で感染症対策(インフルエンザ、ノロウイルス、脱水)を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の発生時の防災訓練をグループホームで年2回実施し、家族や自治会長、民生委員にも参加して訓練を実施している。	消防署の協力を得ての法人全体の訓練（火災時の通報、避難、消火器の使用訓練、避難経路の確認等）に事業所の職員と利用者が参加している。事業所独自で運営推進会議開催時にメンバー（自治会長、民生委員、家族等）の参加を得て、夜間想定火災時の通報、避難訓練を利用者と一緒に行っている。法人の地域交流センターは、地域住民の災害時の避難場所となっている他、非常災害時の関係機関、地域との通報、連絡体制を整備して、法人全体として地域との協力体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとり言葉かけに意識しており、自尊心を傷つけないような言葉かけを心がけている。	人格の尊重とプライバシーの確保についてのマニュアルがあり、内部研修（言葉かけ、個人記録の保管、守秘義務等）で学び、職員は理解をして、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か誘ったり、お願いしたりするときは、「～よろしいですか？」と問うことで自己決定をしてもらい、その中では本人の意思を尊重し、決して無理のないようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたい関わりを行うように努めている。お部屋で日向ぼっこする方やベッドで休まれるなど、その方の生活のペースを大切にしておき、職員側の無理強いしないようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣向にあった衣服やおしゃれを、本人と相談しながら支援している。特に外出する際は、外出する衣服などは本人が選ぶように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが料理と一緒に作る機会を設けており、テーブルを拭くことや、配膳などを行っていただいている。また、グループホームの外で食べれる機会も作り、季節を感じながら食事をしていただいている。	朝食と夕食は、事業所で利用者と職員が一緒に形状の工夫などをして食事づくりをしている。昼食は、法人からの配食を利用している。利用者は食材の買い物、下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は同じ食卓で話をしたり、さりげない支援をしながら、利用者が食事を楽しめるように支援している。季節の行事食(おせち料理、雛祭り、クリスマスなど)、誕生日のケーキづくり、おやつづくり(どら焼き、パンケーキなど)、事業所の庭での食事、家族との食事づくり、年5回程度の外食、個別対応の外食などの他、家族の協力を得ての外食などで食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量と水分量は、表に記載することで把握を行っている。また、ご家族や管理栄養士・言語聴覚士と連携を密にし、家族のご協力を得ることで食形態の工夫を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食、口腔ケアの言葉かけや必要に応じて支援をおこなっている。また、必要に応じて、歯科受診、歯科往診等実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンや行動の把握するとともに、パットの使用頻度なども、スタッフと共有している。また、尿や便の性状の確認を行っている	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認と薬の調整を行い、排便がない場合はホットパックを使用したり、排便しやすい飲食物を摂取していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大まかな入浴日(利用者に応じて設定)はあるが、週2回は入るように努めている。また、その日の体調・気分に合わせて、入りたくない方は他の日に調節して入浴している。	入浴は毎日、14時30分から16時までの間可能で、週に2日以上は希望に合わせてゆつくりと入浴できるよう支援している。利用者は職員と一緒に歌を歌ったり、昔話をしている他、柚子湯などで香りを楽しんでいる。清拭、シャワー浴、部分浴、足浴などの対応をしている。入浴したくない人には時間の変更や声かけの工夫、曜日の変更など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具やパット、居室の明かり等、個別に対応している。夜間は室温調節や乾燥予防のため、加湿器等、季節に応じた対応を行い、必要に応じて、職員間で検討を行って、改善に努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方されたときなどは、スタッフ同士で用法、用量を確認している。また、分かりやすいようにファイルに記載し、スタッフと情報を共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸や調理、洗濯等、また数学の得意な方はドリルをしていただくなど、個々に合わせた役割・楽しみを提供している。今後も、利用者とかかわりを増やし、希望を確認しながら、サービス内容の検討をしていく。	ラジオ体操、嚙下体操、居室の掃除、トイレ掃除、モップ掛け、ゴミ捨て、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食材の買い物、料理の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、カレンダーづくり、テレビ視聴(時代劇など)、プランターの水やり、野菜づくり、草取り、折り紙、ぬり絵、計算ドリル、漢字ドリル、カセットテープを聴くなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散髪、個別の外出、行事など、一人ひとりの希望や状態に合わせた支援を検討している。季節を感じられるような行事やなじみの場所への外出、ご家族との交流も含めた日帰り旅行等も実施している。	周辺の散歩、スーパーでの買い物、馴染みの美容院の利用、初詣、季節の花見(梅、桜、つつじ、紫陽花、紅葉など)、車での外出(自宅や生家周辺、仁保の道の駅、瑠璃光寺、井上公園、ココランド、茶蔵庵、ゆめタウン、フジグラン、スターバックス)、法人敷地内の売店、年5回程度の外出などの他、家族の協力を得ての外出、買い物、一時帰宅など、戸外に出かけられるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持等については、個々に対応しており、職員間で支援内容を統一し、個別に対応している。また、金額が大きくなるものは本人、家族に確認、相談をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけたり、家族から手紙が来た場合は手紙を書いて、職員と一緒に郵便ポストまで出かけ、郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間において、季節に応じた室温設定を行い、エアコン等を使用し、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	リビングの大きな窓から差し込む陽ざしで明るく、テレビを囲むようにソファをが配置している他、畳コーナーもあり、利用者が思い思いにくつろげる居場所となっている。台所は食堂と対面になっており、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。折り紙などを使った季節毎の飾りや日めくりカレンダーが掲示してあり、温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファとTVを配置し、思い思いに過ごせるように配慮している。テーブルと椅子も配置しており、一人でも過ごせるようにも配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明を行い、自宅で使用されていた物を持参していただき、本人が心地よく過ごせるよう、一緒に取り組んでいる。	テレビ、テーブル、椅子、衣装ケース、鏡台、時計、花瓶、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やぬり絵などの自身の作品や生花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るところは本人に行っている。出来ないことに関しては、ケアの統一を図り、安全で自立した生活が送れるよう取り組んでいる。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあさくら

作成日：平成 30 年 10 月 17 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	グループホームあさくらの全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけることができる。	・グループホーム内にて、応急手当や初期対応の定期的な研修を行う。 ・消防署の救急救命講習に参加する。	6ヶ月
2	11	グループホームの運営に反映する利用者や家族の意見や要望が出ていない。	利用者や家族の意見や要望が出やすい環境を整える。	利用者や家族との信頼関係の構築に職員一同が努めていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。